

FOMCを受けての日米株式・リート市場 2024年の利下げ見通しに変化なしを好感

2024年3月21日

当面は利下げ開始時期を探りつつ、堅調に推移しよう

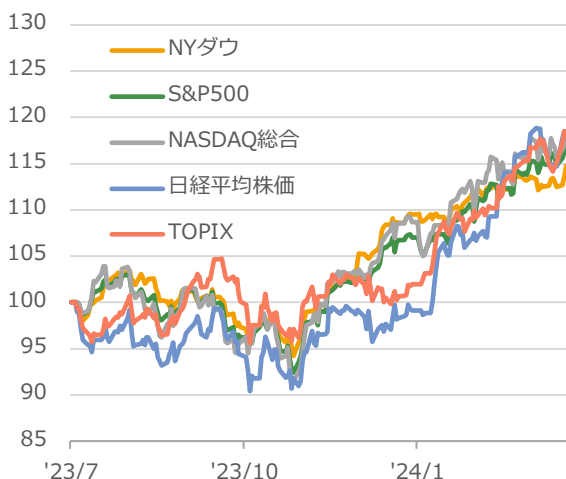
FRB（米国連邦準備制度理事会）は3月19～20日（現地、以下同様）に開催したFOMC（米国連邦公開市場委員会）で、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジの据え置きを決定しました。発表された声明文は1月FOMCと比べて大きな変化はなく、また四半期ごとに発表されるFF金利見通し（FOMC参加者予想の中央値）も、2024年末は前回（12月FOMC時点）と同水準でした。

20日の米国株式市場は上昇しました。2024年末のFF金利見通しが、現状からは3回の利下げ（1回あたり0.25%ポイントの場合）で変わらなかったことが好感されたようです。ただ、2025年以降の見通しが若干上昇した点は、将来、懸念される局面があるかもしれません。日本では、19日に17年ぶりの利上げが発表されましたが、利上げが経済の好循環を反映したものであることや、緩和的な金融環境は維持されるとみられること、FOMCも無難に通過したことで、日本の株式市場は当面、堅調に推移しそうです。

20日の米国リート市場は上昇しました。引き続き金利動向に左右される展開で、同日は金利低下が好感されたようです。ただ、足元では業績見通しの修正を受けて、セクター間のパフォーマンス格差が拡大しています。中長期的には、金利が低下方向とみられる点は、金利敏感な資産である米国リートにとって追い風といえそうです。日本のリート市場は、日銀の金融政策決定会合を経て、悪材料出尽くし観測から足元で大きく反発しています。高い配当利回りが支援材料となり、需給環境の改善が見込まれます。

日米主要株価指数

（2023年7月初～2024年3月20日：日本は19日まで）

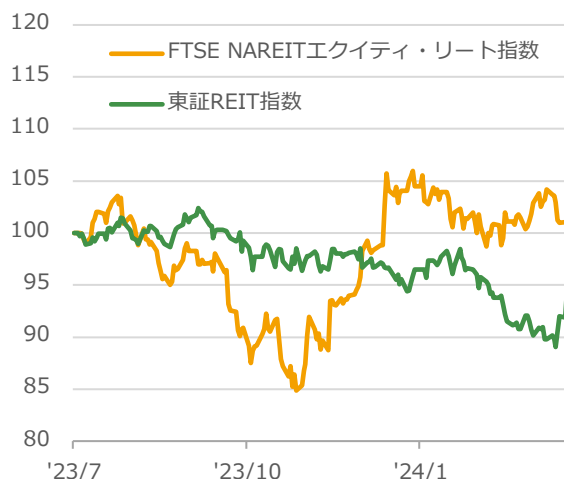


※起点を100として指数化、現地通貨ベース

（出所）ブルームバーグ

日米リート指数

（2023年7月初～2024年3月20日：日本は19日まで）



※起点を100として指数化、現地通貨ベース

（出所）ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management